

農業環境における放射線影響ゼミナール（大学院）

農業環境の放射線影響（学部）

アンケート（平成 26 年 7 月 14 日）

1. これまでの講義では除染や線量の変化などにおける話が多かったが、今回は水産業の抱えている背景から原発被害の影響が考えられて興味深かった。
2. 放射能汚染に関して水産物に対しては経験的にも情勢的にも水産物のイメージは悪いことは確かであると思います。漁業の復興には長期的なビジョンが必要であるとは思いますが、その中でも能動的に動かなければならないのでしょう。ある程度売り手の強い漁業のビジョンは大切なのかなと思いました。
3. 風評被害、関西についてですが、風評被害というよりそもそも小売店が仕入れていないということはないのですか？放射線に対する意識は関西ではあまり高くない気がします。漁業経済という言葉が今まで知らなかったのが非常に面白かったです。以前石巻市にボランティアで行ったのですが、今回お話されていたような様々な問題が組み合わさっているのを実感しました。
4. これまでとはやや毛色の違った経済的な内容で面白かった。消費者の復興への貢献意識と聞くと、今年度の 5 月祭で弥生キャンパスにて被災地支援の一環として魚介類だったかの出店があり、それがかなり盛況だったことを思い出す。あの例では東大のような「有名所」のネームブランドで安心感の保証があったからという理由があると思われるが、これをスーパーなどに適応するのは難しい。となると、今回の放射線汚染が怖いから買い控えるという意思に対しては大学のような、研究機関による対応も重要なのだと感じた。
5. 海での試験でヤナギダコとミズダコの 2 種のタコを使ったのはなぜですか。被災後の水産業の現状について漁量や被害額など様々な面から知ることができました。特に被災後の日本での水産物と肉類の消費量のグラフには驚きました。そもそも日本の漁業の売り手側が弱いシステムであるとか、流通がスムーズでないなど、震災を期に多くの産業がシステム全体の見直しを迫られているので、漁業もその一つであることがよく分かりました。
6. 福島の漁業の復興のためには、放射能汚染による風評被害だけでなく、様々な要因がからんでいるのだと思った。水産物の消費量が減少していることは大きな懸念事項だ

と思うし、代替商品や他の生産地の商品の影響も大きいと思う。漁業の復興の為には、十分な情報提供などといった風評被害対策だけでなく、復興への貢献を重視する消費者の気持ちに訴えかけられるような付加価値を加えるマーケティング戦略を加える必要があると思った。また、なぜ復興が遅れているのか、原因をしっかりと解明する必要があると感じた。生産者側だけでなく、消費者が何を考えていて何を求めているのかも調べる必要があった。

7. 日本人はみな福島に出向くべきである。福島を中心とした東北の漁業の回復が遅れている原因は、中央政府の誤った方針や消費者の誤解による風評被害が主である。これらは、福島に行き現状をしっかりと見極めることで回避されるはずである。以前、福島の郡山にいた帰りにいわきに寄ってきたが、いわき駅前には日本の他の地域と全く変わらない様子であった。福島は大丈夫といえども、いわきほどになると何か違うのだろうと思っていたが、見事に裏切られる結果となった。同じように、他の人々も実際に行くことによって考えが変わるはずである。よって、全員が変な懸念を抱くことなく向かうことが重要だと考えられる。
8. 日本では高い魚しか売れてないという事実が福島県水産業の復興を大きく遅らせていることに驚かされた。近年はスーパーなどの進出により売れ残りリスクの回避からこのような生産者の立場が弱くなってしまったことや、流通段階別の価格など数値的なデータを分かりやすく解説してくださり、漁業に従事する生産者の苦しさがとてもリアルに伝わってきた。水産版ジャストインタイムという考え方は実証研究などにより、車のように確実に魚を注文に合わせて納められることを証明しないと広まることは難しいと思った。
9. 2011/03/15 の福島県漁業協同組合、福島県沿岸および沖合での漁業操業自粛ということについて、"自粛"が気になっていましたが、政府が漁業禁止を命令すると、賠償について面倒なことになるからではという解釈を聞いて納得しました。沿岸に住んで津波被害を受けた人々は書類等が流されていて保証が不平等になったり、将来ビジョンが不透明という話、難しいところ。津波翌日、福島の若いエネルギッシュな漁業者は復興に向けて動き出していたという話を聞いて驚きました。現在は試験操業で福島は売れ残っていないが、従来レベルの操業に戻すと売れ残るのは目に見えている。とりあえず捕れるだけ捕る漁業はやめて注文を受けてから捕る漁業への転換が急務。(現地の漁業者は可能だといっているし、実現させたい)トレーサビリティは消費者も喜ぶ。コウナゴがイカナゴの稚魚だと初めて知りました。イカナゴは兵庫でよく食べられているので割と身近な魚だったので一般的には流通していないと知って驚きました。(イカナゴのくぎ煮を食べて毎年春を感じます)

10. 津波によって売上高の書類が流されてなくなったとのことだが、紙面上でデータ管理していたことに驚いた。津波でなくても日常的に紛失しやすそうである。消費者がスーパーなどで魚を手に入れる前にバイヤーによって利益の出る魚ばかりが市場に出回るので、ある意味"制限されている"のだということを知った。漁港から消費者までの仲介者を改めて見てみると、こんなに数多い必要はあるのかと不思議に感じた。スリム化できそう。最後のスライドにあった、ニーズに合わせた漁業は面白いと思った。
11. 漁業における今回の事故の影響は農業よりもむしろ大きいと思っていましたが、だからこそ従事者の方や関係者の慎重さがむしろ安心だなと思いました。震災復興云々よりも漁業全体の改革が必要なのではと感じました。
12. 話を聞いていると、今までのような流通のしくみでは非効率であっても、突然の制度変更が難しいように感じたので、確かに今回の福島の件は、制度変更を行ってみる機会として、いい機会なのかもしれないと思った。
13. 海産生物の種によって濃縮係数が大きく違うことは興味深いと思いました。また、漁業といえば獲ってきた魚を市場で売るイメージだったのですが、注文を受けてから漁に出るというアイディアは面白かったです。
14. 試験操業の海域について、内陸からの川と海の合流などについて考慮されているのか疑問に思った。事故当時、福島第一原発からの放射性物質は北西方向に降り注いだ。これまでの講義で、地面に浸透したCsは徐々に地下水に通じて川などに合流していく、そのためある程度時間が経過した後、海水のモニタリングをした場合、川と海との境が比較的線量が高くなるのではないかと思い、漁業及び試験操業をする際には、時間差での放射性物質の流れ込みに留意する必要があると思いました。
15. 今後、復興において必要なものは、福島県の沿岸部の復興をどうするかにかかっていると思います。すなわち、計画的避難区域や警戒区域の市町村を復興させるのか、帰還を可能とするかといった問題です。漁業者がどこに住み、どのような漁業を行うのかという問題が現実としてあります。居住地や漁業種類もこれまでと同じようにとはいえないと思うので、こういった問題をいかに解決するかが、福島、日本にとって重要な課題だと思います。
16. 「消費者の行動」の項で、「東北の魚であれば」「福島の魚であれば」心配するという回答者が35%ちょっとしかいなくて、思っていたより少なくて驚いた。特に「福島の

魚であれば心配」という人が 15%ほどしかおらず、メディアの情報からはさも福島県産の海産物を消費者は避けているかのような印象を受けていたため、そういうところでも情報の受け取り方、発信され方に左右されているのだと考えさせられた。「注文してから沖にでる漁業」とあるが、そううまく狙った獲物がとれるのか疑問。「絶対にこの量は獲れる！！」という量があるのか？でもその時々によって魚がいるかないかわからないのだし、注文を受けてもそれに見合う量が獲れなかったらどうするのだろうか…漁師の勘で獲れるところがわかったとしてもいつもそれがうまくいくのだろうか？…と素人に不信感を抱かれてしまうので、そこをうまくプレゼンするなり論破するなりしないと（あるいは試験的に数回漁を試してみるか）この方法は使えないのではないかと思った。

17. 私は佐賀出身ですが、今日の講義でもでてきた、九州、関西の方が風評被害が大きいということにすごく納得しました。私の主観的な印象ですが、西日本の人は 3.11 の震災以降、東日本に対して漠然とした恐怖感を持っている人が多いように思います。大学受験の志望校を決める時も私の友人の中にも、関東ではなく関西、九州にとどまるように進路を変更する人も少なからずいました。九州の方は東京や東海、東北と違ってめったに地震が起きません。それだけに 3.11 の津波の映像や火災、がれき、原発の爆発などは、東京など以上に衝撃的に映ったように思います。未だに帰省すると、地震や原発のことを聞かれて、良くも悪くも風化していないのが九州の実状のような気がしているのが主観的な意見です。
18. 賠償の計算方法が確立されているほど漁業は不安定な業種なのだなとあと思いました。試験操業の実施状況のお話で、様々な魚種に対し漁法や生息海域など様々な要因を総合しながらひとつずつ判断していくことは大変な作業だろうと思います。消費者の復興への貢献意欲が生産者に届かないことがある話は面白かったです。今回の講義は放射線汚染だけでなく、漁業全体の様々な問題について、知らなかったことが多く勉強になりました。水産物のほうが冷やして流通させなくてはいけないことや、加工が必要な点で青果より経費がかかるためにも、流通のスリム化が必要になるのだと思いました。
19. 現在の漁業システムが誰にとっても良いシステムになっていないということに大変驚いた。流通のスリム化や注文漁獲により、かかるコストを削減していかなければ、もはや産業ではなくなってしまうと感じた。風評被害などの経済的影響も計算して、コストとして評価していくことが必要だと感じた。日本は魚の売り手が弱いことは問題だと感じた。農業には保証があるが、漁業にはあまりないのはなぜか。

20. 福島県の漁獲量が未だに以前の 30 分の 1にとどまっているというのは予想以上でした。また、回復の減速要因も、放射性物質による直接的なものだけでなく土木業への人材流出など間接的なものが重要な位置づけにあるということも今日知りました。底生の魚を獲ることをおじけづいて自粛した人がいるという話を聞いて思ったのは、もし放射性検査でひっかかる魚を獲ってしまった場合、何か個人として責任を負うということが発生するのかな？ということです。漁業において注文を受けてから獲りに行くという発想は、とても面白いと思いました。すでに実施しているところはあるのでしょうか。
21. 今回授業をしていただいていたありがとうございました。30 ページ目の流通段階別の価格で、「現状誰も納得していない価格設定になっている。」というのは興味深い発見だった。復興の中に放射能の問題だけでなく、マーケティングといった問題は大事なものだと感じた。
22. 6 次産業というのは初めて聞いたものだが、うまくいかない例というのがイメージできない。詳しく紹介していただけるとうれしい
23. 漁業経済の研究室が初耳だった。漁業産業の構造や、抱えている問題点の話が面白かった。「注文を受けてから沖に出る」型の漁業を実行に移すにあたって、さしあたり、一番大きな課題となるのは何であるか知りたい。
24. 近年の漁業の衰退(生産・輸入)の理由として食生活の欧米化ももちろんあると思いますが、原発事故による汚染で、消費者が水産物を敬遠しているというのもあるのではないかと思います。
25. 復興時に目指す漁業として流通をスリム化するというのはとても共感できました。ただ、漁業のあり方が大きく変わるので、それを管かつする人が必要だと思いました。ジャストインタイムだけでなく冷凍保存などもありえるのではないかと思います。
26. ただでさえ不安定といわれる漁業が震災により受けた影響は大きいと思う。しかも東北は漁業が活発だから尚更だと思う。震災で受けたダメージを最小限にして一早く東北の漁業が復活して欲しいと思う。そのために私もできることを考えていきたい。
27. 研究者としてより、むしろ行政側の視点から、福島事故による漁業の影響や現状を説明して頂く講義であったので、復興の課題に対して別の角度から見ることも大切だなと再認識させられました。また、震災云々以前に漁業が抱える問題点が、流過程、

マーケティング戦略、高齢者問題、漁獲高、消費量などで複雑に存在することも、併せて解決していかなければならない、重要な課題と感じました。

28. 東北の漁業の復興を目指すに際しては、震災による被害だけではなく、現代の水産物の販売形態などの経済学的問題を考慮しなければならないことは初めて知ったし、興味深く思った。
29. ^{137}Cs 濃度は魚種によってバラつくようだが、これまでの講義から、底生型や遊泳型などの生活型によって ^{137}Cs 濃度に影響するように思った。それに関連して、漁業対象種だけでなく、それらの餌となる生物については ^{137}Cs の分析は行われていないのかと思った。 ^{137}Cs の取り込みは主に餌からであると思うので、ベントスやプランクトンの ^{137}Cs 濃度を測定し、高線量の餌生物を食べる魚種を避けて漁業を行うのがよいのではないかと思った。
30. 水産物を売る際の問題点について知ることができた。水産物の消費量が下落してしまった理由の一つは、外食の増加だと思う。レストラン等では魚でなく肉を食べることが多い。また、家で食事をする際にも、料理の難しい魚よりも肉を食べることが多いだろう。水産物の消費量を増加させるためには、家で料理をする習慣をつくる必要があるといえる。日本人が料理をするようになれば、和食という文化の保存、和食に合う国産食材の消費など多くのメリットがあると考えられる。
31. 被災地域における水産業の回復を最も妨げているのはやはり風評被害であると感じる。風評被害の影響は圧倒的であり、改善は非常に難しく思えてくる。消費者の立場では、詳しい調査結果などは興味を持って知ろうとはせず、安全と言われても他の選択肢がある以上無難と思える選択をとるはずである。自分の知っている限りでは、ネットの反応では今は大丈夫でも 20, 30 年後には絶対影響がある、という意見が多数であり、こういった人たちを信用させるにはどのようにすれば良いのか考えたものの難しい。水産資源被害の問題はこれまでも中でも特に頭を悩ませる内容であった。